

今、ストーカー被害・加害にいかに向き合うか～意識のアップデートを目指して～
—京都ストーカー相談支援センター5周年記念シンポジウム—

登壇者プロフィール



内澤 旬子(文筆家/イラストレーター)

神奈川県出身。『身体がいいなり』で第二十七回講談社エッセイ賞受賞。『世界屠畜紀行』『漂うままに島に着き』など著書多数。2014年より香川県小豆島に移住。獣肉販売にも従事。2019年自らのストーカー被害体験を書いた『ストーカーとの七〇〇日戦争』を文藝春秋より上梓。



猪野 憲一(桶川ストーカー事件被害者遺族)

1999年10月、埼玉県桶川市で発生した「桶川ストーカー殺人事件」の被害者、猪野詩織さんの父親。犯罪被害者遺族の立場で全国で講演活動を始め、事件をきっかけにストーカー規制法が制定。警察庁「ストーカー行為等の規制等の在り方に関する有識者検討委員」歴任。



上谷 さくら(弁護士)

犯罪被害者支援弁護士フォーラム事務次長。第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会委員。法務省性犯罪に関する刑事法検討会委員(2020年～2021年)。著書に『おとめ六法』(共著、KADOKAWA)等がある。



小早川 明子(NPO ヒューマニティ理事長)

2003年NPOヒューマニティを設立。ストーカー被害者のこころのケアと平行し、加害行為を行う側へのカウンセリングも行う。警察庁「ストーカー行為等の規制等の在り方に関する有識者検討委員」を歴任。京都府警察「京都ストーカー総合対策ネットワーク会議」アドバイザー。